

F Mアップルウェーブ 第123回放送番組審議会

開催日時	令和3年3月27日（土） 12:00~13:00
開催場所	土手町コミュニティパーク（弘前市土手町）
出席委員	委員長 佐藤 信隆、副委員長 鳴海 清彦 委員 渋谷 拓弥、佐々木 裕和、高村 智子、石田 有希子、窪野 夏希
会社側出席者	代表取締役社長：一戸 勝美、取締役：倉田 正直 放送部統括マネージャー：花田 由香子
議 題	(1) 番組に対する意見要望 (2) 次回開催日について 3月27日（土）
議事の概要	<p>○ 各委員が質問と意見や気が付いた点を述べる形で議事が進行した。</p> <p>1) 課題番組 『いのちによりそうゲートキーパー～心がコロナに負けないために～』</p> <p>① 自分自身のためにもなると思えた、濃い内容であった。コロナ禍によって環境の変化などから女性と子供の自殺が増えているというのは報道でもよく目にしていたので、タイムリーな話題。臨床心理士の大里助教の口調が優しくとても聞きやすかった。傾聴・対処の方法・テクニックも例えや流れを示していたのでわかり易かった。</p> <p>② コロナ禍で人との距離をとったりマスクをしたりしている中で、人に関心を持ったり、周りの状況をよく見て変化に気づかなければいけない必要性を知ることができた。アンケートやそれに対する回答、関係機関の連絡先などもまとめていて、必要なことを網羅していたのがよかった。FMアップルウェーブのHPで現在も聴けるようになってきているのも良い。</p> <p>③ 内容もよく、何度も繰り返し聴きたいと思った。具体例を提示していること、聞き手がわかりやすくまとめているのも良い。日常が忙しいと相手の話をじっくり聴く、ということが疎かになりがちなので気を付けたいと思った。事前アンケートに対する大里助教の返答が、まさに傾聴の良い例になっていて参考になったのも良かった。</p> <p>④ 「自分の心について考えてみませんか」という導入が良かった。早い段階でゲートキーパー手帳の紹介があれば、それを見ながら聴くことができたのでよりわかり易かったのではないかと。電話番号や関連するHP、フェイスブックまで紹介していたので、ゲートキーパーについて、もっと詳しく知りたい、調べようと思えた。</p> <p>⑤ 「コロナ禍での自殺者の増加」について扱うテレビ番組などは「危機感を煽るような作り」と感じるものが多い中、穏やかな雰囲気の情報発信しているのがよかった。番組構成もしっかり組み立てられていたし挿入されていた音楽も関連性のあるもので、作りこまれた番組だと感じた。今後もこのようなテーマの番組は継続して制作してほしい。</p> <p>⑥ やさしい口調で進められていて聞きやすいと感じた。ぜひ若い世代に聴いてほしいと思える番組。誰にも言えず悩んでいる人は多いはずなのでHPで聴けるのが良い。Q&Aでは現実的なことに対する質問と回答があったのが良かった。年に一回ではなく、回数を増やして掘り下げてほしい。</p> <p>⑦ 必要性が高いテーマの番組なので特別番組ではなく週に一度など定期的に放送すべき番組。Q&Aを紹介する場面ではBGMは必要ないと感じた。</p> <p>⑧ 多くの人が誰にも言えずに、精神科に通うこともなく自死を選んでいる、という現実についてもっと考えなければならない。家族、学校や地域社会の中で子供たちに対して無関心な大人が増えてしまっていることが問題であり、そういった社会構造への警鐘を鳴らすという視点の番組であっても良いのではないかと。</p> <p>⑨ 誰もが途方に暮れて、死んでしまいたいと思った経験はあるはず。コロナの話題から自殺対策について詳しく紹介しているが、その中身はコロナに限ったものではなく一般的な自殺対策であった。もっとリスナーの関心を得るために、導入ではインパクトのある話題、リアリティを感じる生々しい話を入れても良かったのではないかと。</p> <p>【審議機関の答申または改善意見の公表】</p> <p>1) 議事録を本社に配備し、社内各部署に配布 2) FMアップルウェーブのホームページに掲載</p>

